

人間社会研究科 人間学専攻〔修士課程〕

ディプロマ・ポリシー(DP)	カリキュラム・ポリシー(CP)
<p>人間社会研究科（修士課程）では、建学の仏教精神に基づいて人間尊重の立場に立った研究活動を行い、人間の精神、心理、生命、社会などの分野において高度に専門的な知識を修得し、各専攻・コースの所定の修了要件を満たした学生に対し学位を授与する。</p> <p>◆人間学専攻〔修士課程〕</p> <p>人間学専攻（修士課程）では、以下の要件を満たすとともに各コース所定の要件を満たした者に、人間行動学コースにおいては修士（人間行動学）、臨床心理学コースにおいては修士（臨床心理学）、言語聴覚コースにおいては修士（言語聴覚学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.人間に関する高度な専門的知識と優れた人間理解力を身につけていること。 2.人間が直面する歴史的、社会的諸課題を深く分析し、主体的に解決できる高度な実践力を身につけていること。 3.所定の単位を修得するとともに、人間学の個別分野に関する専門的な内容の論文執筆指導を受け、修士論文もしくは特定課題研究論文を執筆し、論文審査に合格すること。 <p>（人間行動学コース）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.社会心理学や認知神経科学に関する専門的知識・技能を身につけていること。 2.修士課程を修了後、自分自身で更に専門性を高め、社会に貢献するために必要な科学的方法論、人間理解能力を身につけていること。 3.所定の30単位を修得するとともに、人間行動学の個別分野に関する専門的な内容の論文執筆指導を受け、修士論文を執筆し、論文審査に合格すること。 <p>（臨床心理学コース）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.臨床心理の高度の専門家となっていくために必要な知識、技術、態度を身につけていること。 2.修士課程を修了後、自分自身で更に専門性を高め、社会に貢献するために必要な科学的方法論、人間理解能力を身につけていること。 3.所定の34単位を修得するとともに、臨床心理学に関する専門的な内容の論文執筆指導を受け、修士論文を執筆し、論文審査に合格すること。 <p>（言語聴覚コース）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.言語聴覚士として高度な専門家となるための必要な知識、技術、態度を身につけていること。 2.修士課程を修了後、自分自身で更に専門性・実践力を高め、社会に貢献するために必要な科学的方法論、人間理解能力を身につけていること。 3.所定の30単位（言語聴覚士の資格を有していない者は55単位※）を修得するとともに、言語聴覚障害学の発展に資する内容の論文執筆にむけた指導を受け、修士論文もしくは特定課題研究演習を仕上げ、審査に合格すること。 <p>※ 資格取得のためには修了要件55単位に加えて専門基礎科目35単位の修得を要する。</p>	<p>人間社会研究科（修士課程）では、人間尊重の立場に基づき、科学的根拠に基づいて研究活動を行い、人間の精神、心理、生命、社会などの分野において専門的な知識を修得し、実践力に優れた専門的な職業人もしくは研究者を養成するために必要な教育課程を編成し、実施する。</p> <p>◆人間学専攻〔修士課程〕</p> <p>人間学専攻（修士課程）では、教育課程編成方針として以下の2点を掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.講義科目である特論と演習・実習を組み合わせ、専門的な知識と実践力をともに養うことのできる科目構成となるよう授業の編成を行う。 2.幅広い知識と総合的な人間理解力を身につけるため、人間学コースと臨床心理学コース（一部制限あり）の科目は相互に履修可能とする。各コースの授業の編成と実施内容については以下のようなものである。 <p>（人間行動学コース）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.仏教精神に基づく人間尊重の倫理・道徳観と科学的な思考能力を養うために、1年次に「人間学特別講義」を必修科目として配置する。 2.社会心理学や認知神経科学に基づいて人間行動の研究をおこなうために必要な文献読解力や論理的思考力を身につけるために、1年次に「人間科学演習」を配置する。 3.科学的方法論、人間理解能力を身につけるために、各々の専門分野において必要とされる知識の修得のための講義科目としての特論と技能や実践力を習得するための特論演習を組み合わせ配置する。 4.2年次には、自ら研究することを学ぶため、専門分野に関する研究を行い、修士論文を作成する。 <p>（臨床心理学コース）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.仏教精神に基づく人間尊重の倫理・道徳観と科学的な思考能力を養い、臨床心理の高度の専門家となっていくために必要な技術、態度を身につけるために、1年次に「人間学特別講義」を必修科目として配置する。 2.公認心理師資格を目指す者に対しては、公認心理師受験資格の取得に必要な講義科目と実習科目の教育を行う。 3.臨床心理士資格を目指す者に対しては、臨床心理士養成の第一種指定校として必要な基礎科目、関連科目、実習科目の教育を行う。 4.科学的方法論、人間理解能力を身につけ、広い視野から人間を考えるため仏教学やターミナルケアの授業を履修可能とする。 5.2年次には臨床心理学に関する研究を行い、修士論文を作成する。 <p>（言語聴覚コース）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.言語聴覚士の資格取得を目指す者は、国家試験受験資格の取得に必要な【専門基礎科目】と【専門科目】を中心としたカリキュラムに基づいて教育を行う。 2.すでに言語聴覚士の資格を有しているものは、さらに高度な専門性と実践力を身につけるべく【専門科目】と【専門発展科目】を中心としたカリキュラムに基づいて教育を行う。 3.言語聴覚士の資格を有し、なおかつ3年以上の実務経験を有しているものを対象に、【専門発展科目】を中心とした1年制の短期コースを設け、業務の継続を前提に高度な実践力と応用力を養うための教育を行う。 4.いずれのコースにおいても、入学前から研究計画に関する入念な助言を行い、人間学としての言語聴覚障害学における臨床と研究の発展に資する研究論文の完成に向けた指導を行う。